

# 「よこすか発電所 くりはまの森」について

2025年2月、横須賀火力発電所（よこすかかりよくはつでんしょ）の緑地（りょくち）「よこすか発電所 くりはまの森」が、国から自然（しぜん）を大切にしているところとみとめられました。

この森にはたくさんのいきものがすんでいて、発電所全体で合計500種以上の動物や植物が見つかっています。



横須賀火力発電所  
（よこすかかりよくはつでんしょ）



オオシマザクラ

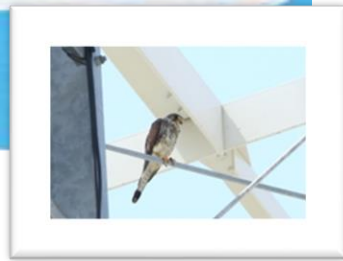
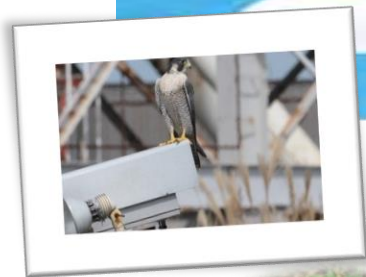
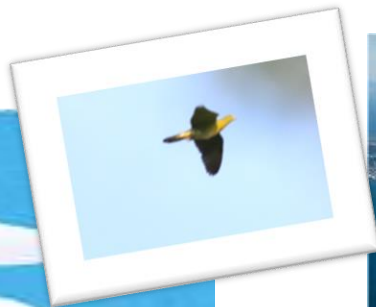


スタジイ

参考URL：JERA ホームページ

[横須賀火力発電所敷地内の緑地「よこすか発電所 くりはまの森」が環境省の「自然共生サイト」に認定されました | お知らせ \(2025年\) | JERA](#)

よこすかかりよくはつでんしょ  
**横須賀火力発電所のいきものずかん**




# No.01 タマムシ



## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県（かながわけん）のほぼ全体で見られる。
- ・体の長さは24～40ミリくらいで、金色や緑色に光っている。6月から8月に成虫になり、エノキやアキニレなどの葉っぱを食べるために飛んでくる。
- ・すみかとなる木には、エノキ、ケヤキ、サクラの仲間、カシの仲間、カキ、クワ、ハリエンジュなどがある。
- ・すんでいるところの自然がこわされたり、悪くなるといけるのがむずかしくなる。
- ・この虫は「ヤマトタマムシ」とも呼ばれることがあり、日本にいるタマムシの中では、体が大きくて、いちばんきれいな種類だと言われている。

見られる時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



# No.02 コチドリ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・この鳥は、夏になるとやってくる。関東より西では、少しだけ冬の間もすごす鳥がいる。神奈川県では、平らな場所に夏鳥としてやってきて、冬にも少し見られることがあります。

・すんでいる場所は、川の中流から下流にある川の近くで、とくに、草や木が少ない砂や小石のある場所を好んで巣をつくる。

・巣は、地面を少しだけくぼませて、小石や木のかげら、葉っぱなどを使って、かんたんにつくられる。ときには、工事のあとにできた何もない場所や、駐車場（ちゅうしゃじょう）などでも子育てをすることがある。

・川の工事や、川の近くを人が作りかえてしまうことでいきるのがむずかしくなってしまう。

見られる時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



# No.03 アオダイショウ

## ■説明（とくちょうとすんでいるところなど）

・神奈川県内では、町のなか以外の全体に広くすんでいると思われる。

・林から平たい場所までいろいろなところにすみ、日本では昔から身近な（みぢか）なへびとして知られる。

・ひとの家などにもすみ着き、ネズミをよく食べるので、「家の主」として大切にすることも多い。

・冬は土の中で冬眠（とうみん）する。

・町のなかなどで、だいじなすみかであり、えさもあつた古いお家がなくなり、見かけることがとても少なくなっている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.04 ナチシダ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では一部の山などで見つけられる。葉っぱは長さ 1.5メートルにもなる。葉身（ようしん）は鳥の足のような形をしていてほぼ五角形。
- ・森が切りたおされてしまうことにより、いきるのがむずかしくなってしまう。
- ・地球があたたかくなることで、これから数が増えることが予想される。

見られる時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



# No.05 キンラン

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内ではほぼ全体に生育する。
- ・山や丘に生えて夏に緑色になる。高さは**40センチ**、花は黄色で、茎（くき）の先にかたまるようにしていくつつかく。
- ・土地を作りかえてしまうことのほか、人に取られてしまうことにより数が少なくなっている。
- ・人の手が入った雑木林（ぞうきばやし）などによく生え、里山環境（さとやまかんきょう）の再現（さいげん）などにより神奈川県内各地でふえはじめている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
↔			
←—————→			

※青やじるしは花がさくじき



# No.06 タヌキ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、山でも平地でもほぼ全体で見かけられる。
- ・全身が茶色く、さまざまなものを食べ、人が残したご飯などのゴミも良く食べる。
- ・町のなかで増加をしており、車にひかれてしまうような事故（じこ）も多い。
- ・神奈川県ではタヌキに畑のやさいなどが食べられてしまうことがあり、農家さんをなやませている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.07 ハヤブサ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

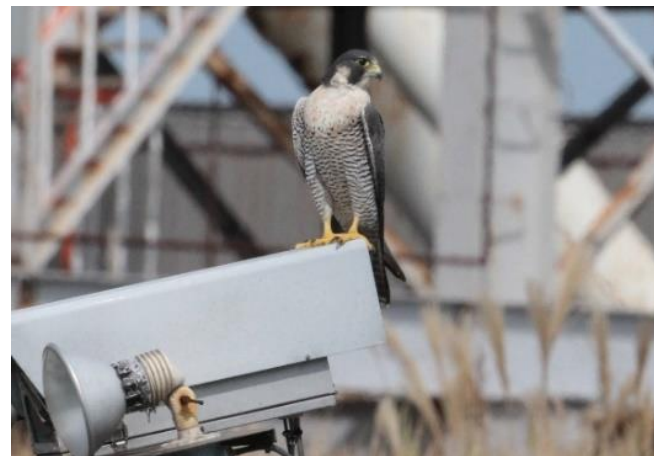
・1年間とどまったり冬に飛んでくる。がけのある海岸に飛んでくる。

・神奈川県内では江の島などの海岸に毎年飛んでくる。しかし、子育てをするのはめずらしい。

・人が近づくことでいきるのがむずかしくなってしまう。

・1年をとおして横須賀火力発電所（よこすかかりょくはつでんしょ）をつかっており、特に冬に狩りをするたいせつなところとしてついている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.08 チョウゲンボウ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、ほぼ一年中見られる。
- ・ハトくらいの大きさでしっぽが長く、羽の先がとがって見え、オス・メスともしっぽの先に黒い模様がある。
- ・これまではがけであつまって子育てをしていたが、最近では、町の中で子育てをすることが多く、橋などでの子育てが見られている。畑や川などの見通しの良いところでよくみられる。
- ・小鳥や虫を食べる。
- ・紫外線（しがいせん）を目で見ることができるとつかい、エサであるハタネズミのおしっこをめじるしにしながら狩（か）りをしている。（ハタネズミのおしっこは紫外線（しがいせん）を反射（はんしゃ）する。）

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.09 ツバメ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県内では、町では夏になるとやってくるが、最近、海の近くでは冬をこすツバメもいる。

・人のおうちで人が出入りするところなどに、土や草をかためた巣（す）を作る。

・木のお家がへって、ビルが多くなることや畑がへること、カラスなどにたまごが食べられてしまうことがしんぱいされている。

・人のお家に巣を作るので、糞（ふん）をいやがる人に巣を落（お）とされてしまうことや、カラスによりヒナが食べられてしまうことがしんぱいされている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.10 ミサゴ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県では、冬に飛んでくる。
- ・大きな川や湖などにすんでいて、空からダイビングして魚をつかまえて食べる。
- ・えさの魚がへること、巣に人が近づくことにより、いきるのがむずかしくなってしまう。
- ・神奈川県では、宮ヶ瀬湖（みやがせこ）などでよく見かけられるようになっていて、子育てをすることが期待（きたい）されている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.11 ヒガシニホントカゲ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、町の中以外の全体にすんでいるようだ。
- ・日当たりのよい石の下や穴などにすみ、ミミズやクモ、虫などをつかまえる。
- ・こどものしっぽはきれいな青色だが、おとなになると茶色くなる。冬は土の中で冬眠（とうみん）する。
- ・町がひろがることによってすみかがへるといきるのがむずかしくなる。
- ・いままでニホントカゲとおなじ種類（しゅるい）とされていたが、2012年にべつの種類とされた。

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.12 ミヤマクワガタ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県内では広くせいそくするが、平地（へいち）では少なく、山や丘があるところにすんでいる。

・平地ではクヌギなどの樹液（じゅえき）にあつまる。6～9月に見られ、7月がいちばん多い。

・ひるによく活動し、樹液（じゅえき）に集まり交尾（こうび）も行う。オスが43～76ミリ、メスが25～40ミリくらい。

・木や森が少なくなったり、樹液（じゅえき）が少なくなるといきるのがむずかしくなる。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.13 アオバト

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県内の丘（おか）から山の森林に夏に飛んでくるが、冬もそのままいるアオバトもいる。

・木が切られることや海のちかくのかいはつにより、いきるのがむずかしくなる。

・むれで海の水を飲みに来る習性（しゅうせい）がある。

・神奈川県の大磯町照ヶ崎（おおいそまちてるがさき）は、県から「アオバト集団飛来地（しゅうだんひらいち）」として天然記念物（てんねんきねんぶつ）に指定（してい）されている。


見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.14 ミゾゴイ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・ 夏に飛んでくる。
- ・ 丘（おか）やひくい山の林に飛んできて、4～7月に高い木の枝に巣をつくる。
- ・ 沢（さわ）でえさをとり、サワガニ、カエルなどが好物（こうぶつ）。
- ・ 神奈川県では、子育てが見られることが少なく、鎌倉市（かまくらし）や三浦半島（みうらはんと）だけで子育てが見られた。
- ・ ゴルフ場や人の家などが作られることによりいきるのがむずかしくなる。
- ・ 縄張り（なわばり）をしめすために日がくれたころに「ポー、ポー」というひくい音で鳴く。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			




出典「ミゾゴイ保護の進め方（環境省）」  
<https://www.env.go.jp/content/900506754.pdf>

# No.15 ショウリョウバッタモドキ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、平地や丘（おか）に生息する。
- ・イネ科の草が生えているところに見られる。とぶことはほとんどない。秋に成虫（せいちゅう）が見られる。
- ・町の草のところへったり、川のまわりをコンクリートでかためてしまうことにより、いきるのがむずかしくなる。
- ・ショウリョウバッタと比べると、頭が短くて丸くて、体が短いほか、後ろ足が短く、ジャンプ力も弱い。また、はねが短く、あまりとべない。
- ・体のかたちや色をイネ科の草に似（に）たようにしている。敵（てき）がくると、すぐに葉っぱのウラに移動（いどう）する。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.16 ノスリ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県内では、子育てをするときは丹沢山（たんざわさん）から大磯丘陵（おおいそきゅうりょう）のかぎられた場所にすんでいる。子育てをしないときには神奈川県の全体の丘や平地でみられる。

・空をとびながらえものを探し、モグラ・ネズミなどを多くつかまえることが知られている。

・森林の木が切られたり、草がなくなるといきるのがむずかしくなる。

・巣をつくりやすい大きな木がへっている。草の環境（かんきょう）が、川のまわりがコンクリートで固められたりするなどして数がへっている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.17 フクロウ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、平地からひくい山の大きな木のある林にすんでいる。
- ・大きな木で巣を作り、子育てしている。
- ・夜にうごき、ひるはうす暗い林などで休んでいる。夕方からうごきはじめ、林にとりあつた畑など広いところでネズミや鳥、カエルやトカゲなどを食べる。
- ・森の木が切られたり、町や道路が作られることにより、いきるのがむずかしくなる。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.18 クロサギ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県では、三浦半島（みうらはんとう）と真鶴半島（まなづるはんとう）にすみ、子育てもしているが数が少ない。海のちかくにすみ、魚をつかまえる。

・巣となっている岸壁（がんぺき）に人が近づいてしまうことが心配される。最近では、巣の近くの岸壁（がんぺき）にはしごをつけられたことがある。

見られる時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



# No.19 カワラヒワ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

- ・神奈川県内では、1年中ほとんど全体で見られる。
- ・子育ては平たい土地に多く、山ではほとんどみられない。
- ・町、村、道路などの林や木などに巣を作る。巣は3～7メートルの高さの枝（えだ）の上にある。秋や冬には、かわらや畑にむれをつくる。
- ・雑木林（ぞうきばやし）や畑、かわらがへってしまい、すむ場所がなくなりいきるのがむずかしくなっている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# No.20 ハネナシセスジナガキマワリ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・体の大きさは9.5～13.0ミリ。色は黒に近い赤や黒。背なかには少し光沢（こうたく）がある。

・頭の表面には、細かいポツポツがたくさんついている。林にすんでいる。夏に見られ、夜にかれた木などにいる。

・環境（かんきょう）がわるくなることにより、いきるのがむずかしくなる。

・1986年の横須賀市（よこすかし）で見られたあと、みられなかったが、最近、観音崎（かんのんざき）で見つかった。少ないけれど少しはすんではいるようだ。

見られる時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
			↔								



# No.21 エビネ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・神奈川県内にはほぼ全体で見られる。日当たりの良い林の中に生える。花は黒めの赤からむらさき色。

・神奈川県内では、すごく減っていることはないが、人がとってしまうことが多く、あるところではなくなってしまうかもしれない。

・生えやすい明るい林が、放置（ほうち）されたり、家がたてられることによりなくなってしまうかもしれない。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			
			

※青やじるしは花がさくとき



# クリハラリス(タイワンリス)

がいらいしゅ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・中国などにすんでいて、このうち、台湾（たいわん）にいたクリハラリスがタイワンリスとよばれている。

・神奈川県内では、三浦（みうら）地域のほか、藤沢市（ふじさわし）、茅ヶ崎市（ちがさきし）、大和市（やまとし）、横浜市（よこはまし）にすんでいることが発見された。

・主に葉が一年中しげっている森を好んでくらす、町の中や人工の森や林でも生息することができる。

## ■被害（ひがい）と対策（たいさく）

・日本にもともといた生き物のエサをうばってしまう、人の家の電線をかじってしまう、畑の作物を食べてしまう。

・飼う（かう）ことやもちほこぶことなどが禁止（きんし）されている。神奈川県では、数をへらす活動がされている。

見られる時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



# アライグマ

がいらいしゅ

## ■説明（とくちょうとせいそくちなど）

・カナダやアメリカなどにすんでいるが、1962年ごろから、日本では動物園からにげだしたり、ペットをにがしたりして、いまはほとんど全国にすんでいる。神奈川県内でも全体にすんでいる。

・夜にうごき、木のぼりや泳ぎがとくい。ねずみや、魚、鳥、かえる、とかげ、虫、やさい、くだものなどなんでも食べてしまう。

## ■被害（ひがい）と対策（たいさく）

・日本にいたいきものを食べてしまうこと、畑のやさいを食べてしまうこと、人もかかるような病気をはこんでしまう。

・飼う（かう）ことやもちほこぶことなどが禁止（きんし）されている。

見られる時期（月）

3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2



